

バレーボール（市民ルール）審判員の心得

■ 審判員として注意すべき点

- (1) ルールの完全な理解者であるとともに、瞬時に正否を判定できること。
- (2) スポーツマンシップの体得者であること。
- (3) 審判としての体験を深めること。
- (4) 服装、言動に注意し、審判員として恥ずかしくない態度で終始すること。
- (5) 判定は事実が起きてはじめて下すものであって、可能性でジャッジしてはならない。
- (6) 判定する時、個人的なくせが出ないように注意する。

■ 主審として注意すべき事項

- (1) 得点がなされた時には吹笛し、得点したチーム側に対してポイントのハンド・シグナルを行い、その後、判定の理由をハンド・シグナルで明らかにする。
- (2) 判定のハンド・シグナルは、片手で行う時は当該チームの側の手で、また、両手を用いる場合は正面を向いて行い、その動作を一定時間保つようにする。
- (3) 事実に関する判定は当該審判員において決定し、競技者に質問するようなことは避ける。ただし、ミスジャッジを確認したときは、レフリーミスあるいはポイント訂正等適切な処置をする。
- (4) ボールがデッドの時には、タイム・アウトかそうでないのか分からない状態にしておかないように注意し、同時にデッドの間をできるだけ短くし、スピーディーにゲームが進行するように注意する。
- (5) 「セット」終了及び「ゲームセット」のコールは、最終のポイントをコールした後、若干の間をおいて行うようにする。
- (6) 判定に迷うという理由で、そのポイントをノー・カウントにしてはならない。（例。アウトかセーフか、ワンタッチがあったかどうか等の場合いずれかに判定を下す。）
- (7) イン・プレー中に他のボールが転がり込む等でプレーに障害があると判定された時は、レフリータイムを宣してプレーを中断する。
- (8) 主審はライン際の判定については、線審より先に判定を下さないようにする。
- (9) タイム・アウトの時は、必ず副審に競技者からボールを取り上げさせる。

ただし、デッドのつどそうする必要はない。

- (10) オーバー・タイムスの判定の中で、特にネットプレーの加わったケースについては前もって整理しておくとい。
- (11) ゲーム開始前にはネットの高さ、張り方、ライン等について点検しておくとい。
- (12) ベンチからの非常識な言動については厳しく注意し、ゲームが愉快に行えるようにすること。